



FY2019 Q2

FY2019 Q2 RESULTS BRIEFING



証券コード 5985

2020年3月期第2四半期決算報告 通期業績見通し 中期計画進捗状況

2019年11月22日
代表取締役社長 大谷忠雄

SUNCALL

RESULTS BRIEFING

INDEX

- 2020年3月期2Q累計決算概要
- 2020年3月期通期業績見通し
- 中期計画進捗状況

2020年3月期 2Q累計 決算概要

Financial Summary
1st Half Year

2Q累計 決算のポイント

8月7日の業績修正通りの着地、前年同期比では減収減益

- 中国景気の減速や欧州の自動車販売不振の影響が続き、自動車分野が低調。特に材料関連製品の出荷が大きく落ち込んだ。
- データセンター向け投資は回復基調にあるが、上期はサスペンションの受注回復までには至らず。
- プリンター関連は計画以上の需要に対応。
- スマートフォン用部品の量産立ち上げが8月に遅延。

2Q累計 決算概要

POINT

- 売上高 : 中国の景気減速などの影響により前年同期比10%減収。ただし、2Qは1Q比約5%増収。
- 営業利益 : 減収要因に加え先行投資による減価償却の増加等により前年同期比79%減益。2Qの営業利益率は2.8%で1Qから1.3ポイント改善。
- 経常利益 : 2Q累計での為替差損23百万円に対して、前期は為替差益68百万円。
- 当期純利益 : 投資有価証券売却益22百万円を計上。

(単位:百万円)	2019年3月期上期		2020年3月期上期		
	実績	8月想定	実績	前期比増減額	前期比増減率
売上高	23,389	20,900	21,007	▲2,381	▲10.2%
営業利益	2,138	450	457	▲1,680	▲78.6%
経常利益	2,315	490	491	▲1,824	▲78.8%
当期純利益	1,394	340	328	▲1,005	▲76.4%

一株当たり利益	43.73円	10.64円	10.27円	▲33.46円	▲76.5%
平均為替レート	110.27円/ドル	107.95円	108.63円/ドル		

2Q 決算概要

POINT
Q1/Q2
比較

- 売上高 : 2Qは自動車分野および電子情報通信分野で1Q比増収。HDD用サスペンションのみ回復が遅れ2Qは1Q比減収。
- 営業利益 : 自動車分野で増収に伴い採算性が改善、営業利益は1Qを底に前四半期比改善。
- 経常利益 : 2Qは受取配当金の計上がなく、営業外損益は1Q比で悪化。
- 当期純利益 : 特別損益に特記事項はない、実効税率は1Q比低下。

(百万円)	2019年3月期				2020年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	1Q比増減額	1Q比増減率
売上高	11,502	11,886	11,591	10,830	10,270	10,737	+467	+4.4%
営業利益	1,145	992	921	324	156	301	+145	+48.3%
経常利益	1,326	989	998	242	200	290	+89	+30.8%
当期純利益	902	491	783	137	120	208	+88	+42.3%

平均為替 レート	109.07 円/ドル	111.46 円/ドル	112.90 円/ドル	110.21 円/ドル	109.90 円/ドル	107.35 円/ドル		
-------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	--	--

2Q累計 製品区分別売上

POINT

- 自動車分野 : 材料関連はメキシコ子会社は前年同期比増収、欧州向け輸出が低迷。異形材料も中国景気減速から低調。
自動車関連は国内需要向けは堅調だが、中国の影響が大きく前年同期比減収。
- 電子情報通信分野 : データセンターの投資は底打ちしたが、当社HDD用サスペンション販売への波及は下期以降。プリンター関連の販売は期初想定を上回った。
- その他 : 遅延したスマートフォン用部品8月から量産開始。

(単位:百万円)	2019年3月期2Q	2020年3月期2Q			
	実績(A)	8月想定	実績(B)	前期比増減額B-A	前期比増減率
売上高	23,389	20,900	21,007	▲2,381	▲10.2%
自動車分野	16,202	15,250	15,219	▲983	▲6.1%
材料関連	2,857	2,500	2,500	▲356	▲12.5%
自動車関連	13,345	12,750	12,718	▲627	▲4.7%
電子情報通信分野	6,861	5,310	5,266	▲1,594	▲23.2%
HDD用サスペンション	4,430	3,000	3,026	▲1,403	▲31.7%
プリンター関連	1,894	1,760	1,749	▲144	▲7.6%
通信関連	536	550	490	▲46	▲8.7%
その他	325	340	522	+196	+60.4%

2Q累計 地域別売上

POINT

- 日本 : 自動車分野では国内需要向けはおおむね堅調、中国市場向け製品の需要が低迷。
- 米国 : 通信関連の拡販が進み前年同期比増収、自動車関連製品は前年並み。
- 中国 : プリンター関連で納入が「その他」地域に変更になったことにより減収、自動車分野の中国景気減速の影響はおおむね想定内に留まった。
- フィリピン : HDD用サスペンションの減収。
- その他 : メキシコでは自動車分野好調、欧州やインド向けの精密機能材料は自動車販売の低迷により低迷。

(単位:百万円)	2019年3月期 2Q累計	2020年3月期2Q累計		
	実績	実績	前期比増減額	前期比増減率
売上高	23,389	21,007	▲2,381	▲10.2%
日本	9,710	9,413	▲297	▲3.1%
米国	2,257	2,308	+50	+2.2%
中国	2,531	1,930	▲600	▲23.7%
フィリピン	4,459	3,043	▲1,415	▲31.7%
その他	4,430	4,311	▲119	▲2.7%

2Q累計 連結財務諸表

POINT

固定資産の増加額の内、海外子会社のリース会計適用によるリース資産の増加750百万円、国内子会社工場や生産設備の建設仮勘定の増加1,043百万円。

(単位:百万円)	2019年3月期末	2019年9月末	
	実績	実績	前期末比増減額
資 産 合 計	50,481	50,594	+113
現 預 金	11,861	10,288	▲1,573
売 上 債 権	9,472	9,124	▲348
棚 卸 資 産	5,567	5,733	+166
そ の 他 流 動 資 産	550	446	▲104
固 定 資 産	23,029	25,002	+1,973
負 債 合 計	14,201	14,289	+87
流 動 負 債	10,694	10,709	+14
固 定 負 債	3,506	3,580	+73
純 資 産 合 計	36,280	36,305	+25
負 債 純 資 産 合 計	50,481	50,594	+113

2Q累計 連結キャッシュ・フローの状況

- POINT
- 営業C/F : 税引前利益が前年同期比1,527百万円減少した一方、減価償却費は1Q(4月～6月)から計上が進み前年同期比で34百万円増加。
 - 投資C/F : HDD用サスペンション設備投資や国内子会社の工場増築などによる支出のため前年同期比で1,400百万円増加。

(単位:百万円)	2019年3月期2Q累計	2020年3月期2Q累計	
	実績	実績	前期末比増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,058	1,530	▲1,528
税引前当期純利益	2,039	512	▲1,527
減価償却費	1,450	1,484	+33
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,099	▲2,406	▲1,306
有形固定資産取得	▲1,000	▲2,400	▲1,400
有価証券売却	-	44	+44
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲216	▲649	▲433
長期借入金増減	151	▲367	▲518
配当金支払	▲323	▲356	▲32

2020年3月期 通期業績見通し

Earnings Forecast Update

2020年3月期通期 業績見通しのポイント(当社前提)

10月23日公表の通期業績見通しから変更なし

- 上期を底に緩やかに回復。
- 米中貿易戦争などの影響で中国市場の需要動向にバラツキがあり、当社顧客ごとの影響が異なる。
- 自動車分野は、顧客の製品在庫は適正化しつつあり、当社では下期緩やかな回復を想定。
- サスペンションは、2Qで底打ち、下期から回復。
- スマートフォン用部品の量産出荷が下期の売上に寄与。

2020年3月期通期 業績概要

- 売上高 : 自動車分野(材料関連および自動車関連)とHDD用サスペンションは上期の落ち込みにより減収。ただし2Q以降回復傾向。自動車の在庫調整の進展、データセンターの投資回復が主因。
- POINT ● 営業利益 : 通期では62%減益だが、3Qから材料関連の採算向上、HDD用サスペンションの販売増加、生産性改善などにより上期を底に回復。
- 当期純利益 : 中国子会社の移転に伴う追加費用などの特別損失および投資有価証券売却益などの特別利益を見込む。

(単位:百万円)	2019年3月期	2020年3月期		
	実績 (A)	今回予想 (B)	前期比増減額 B-A	前期比増減率
売上高	45,812	43,300	▲2,512	▲5.5%
営業利益	3,384	1,300	▲2,084	▲61.6%
経常利益	3,557	1,340	▲2,217	▲62.3%
当期純利益	2,314	1,100	▲1,214	▲52.5%

一株当たり利益	72.59円	34.61円	▲37.98円	▲52.3%
平均為替レート	110.91円/ドル	107.31円/ドル		

2020年3月期下期見通し

上期/下期
比較の
POINT

- 売上高 : 自動車分野では、自動車関連製品は微増、材料関連製品はインド等への輸出増加により10%超の増収を見込む。
電子情報通信分野では、プリンターや通信関連は減少するが、サスペンションが約30%増収を見込む。分野全体で約10%の増収を見込む。
- 営業利益 : 主に増収要因で営業利益の回復を見込む。
自動車分野では、材料関連製品の収益改善などにより約2倍の増益を見込む。
電子情報通信分野ではサスペンションの増収を主因に、この分野で上期比約20%の増益を見込む。

(単位:百万円)	2020年3月期			
	上期実績	下期見通し	増減額	増減率
売上高	21,007	22,293	+1,286	+6.1%
営業利益	457	843	+386	+84.5%
営業利益率	2.2%	3.8%	+1.6pt	
経常利益	491	849	+358	+72.9%
当期純利益	328	772	+444	+135.4%
一株当たり利益(円)	10.27	24.34	+14.07	+137.0%

2020年3月期下期 製品区分別売上見通し

POINT

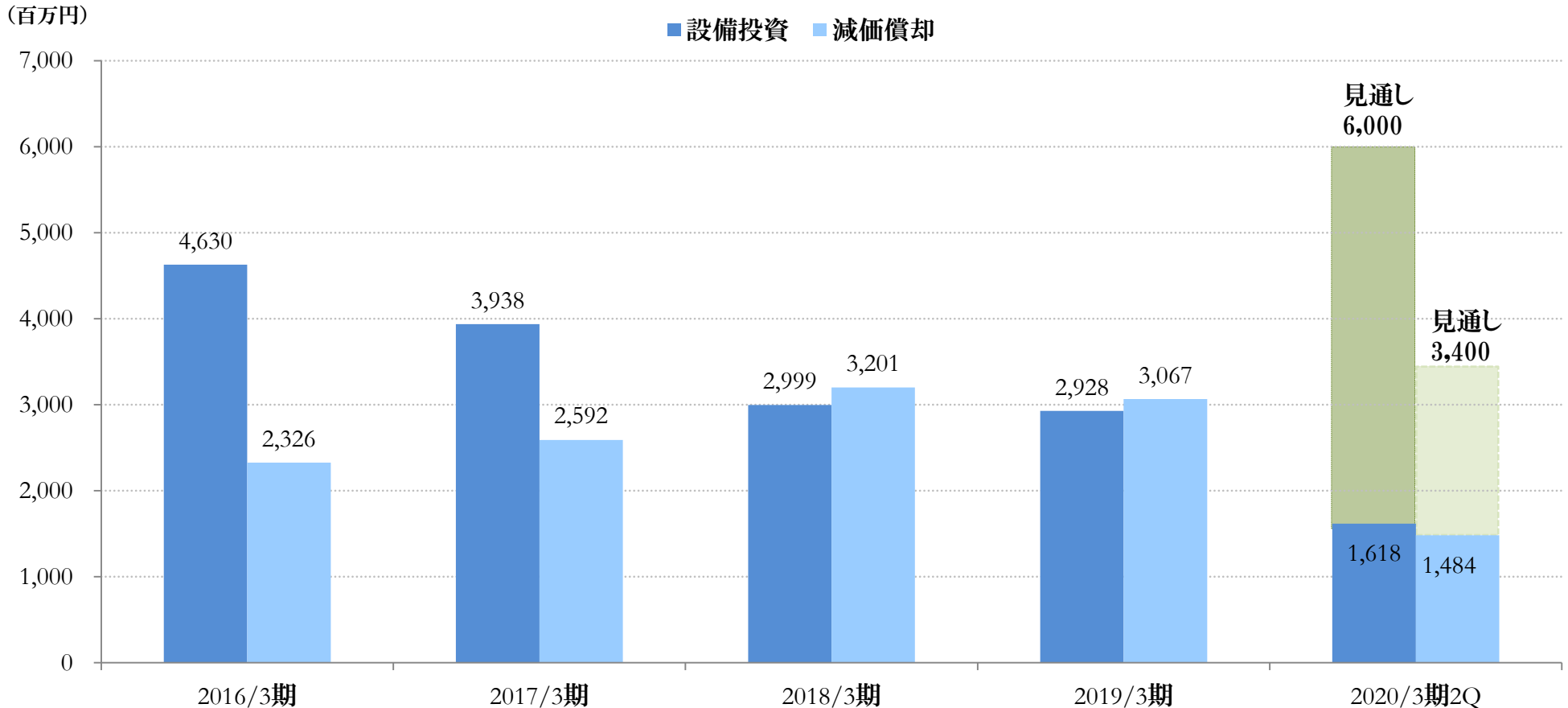
- 自動車分野 : 中国の自動車販売の低迷や在庫調整などの影響は顧客ごとに異なる。当社は下期は緩やかな回復を見込む。
- 電子情報通信分野 : サスペンションは上期を底に回復、下期は前年同期比増収を見込む。プリンターは上期前倒し納入のため下期は落ち込むが、通期で期初想定並みを見込む。
- その他 : スマートフォン用部品の量産開始。
歩行支援ロボットは引き合い等あるが売上寄与は来年度以降に遅延。

(単位:百万円)	2020年3月期				
	上期実績(A)	下期見通し(B)	通期合計	増減額B-A	増減率
売上高	21,007	22,293	43,300	+1,284	+6.1%
自動車分野	15,219	15,780	31,000	+561	+3.7%
材料関連	2,500	2,799	5,300	+298	+11.9%
自動車関連	12,718	12,981	25,700	+263	+2.1%
電子情報通信分野	5,266	5,733	11,000	+467	+8.9%
HDD用サスペンション	3,026	3,873	6,900	+847	+28.0%
プリンター関連	1,749	1,550	3,300	▲199	▲11.4%
通信関連	490	309	800	▲180	▲36.8%
その他	522	777	1,300	+255	+48.9%

2020年3月期通期 設備投資・減価償却の状況

POINT

- 上期の設備投資は日本および中国での自動車関連製品能力増強ならびに開発関連投資。
- 下期にHDD用サスペンションおよびプリンター関連製品の能力増強ならびに工場増築など進行中。
- 今期投資計画70億円に対して60億円、減価償却費計画37億円に対して34億円の見通し。

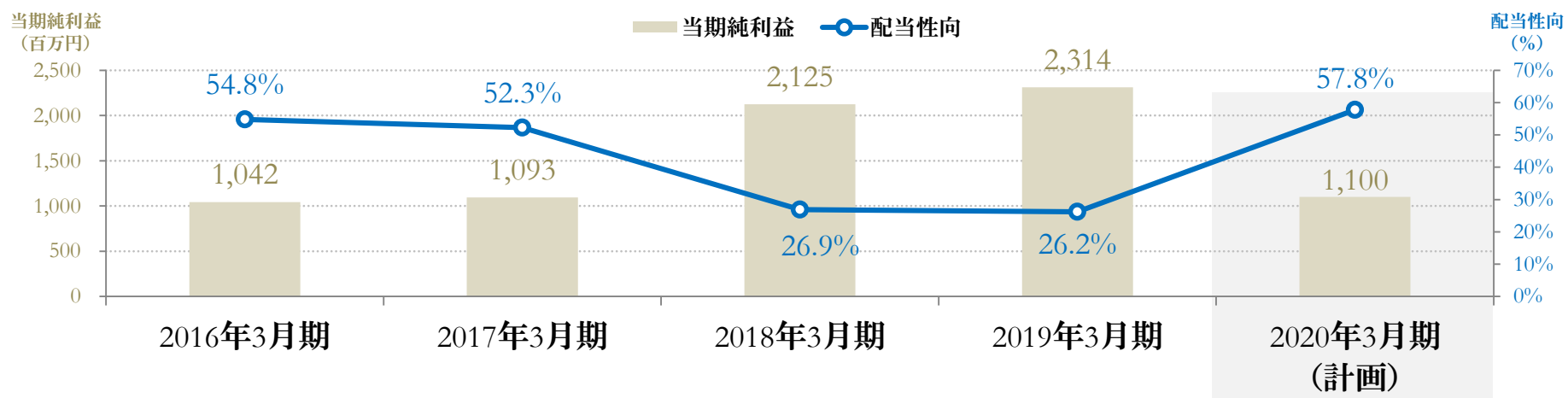


※上記設備投資額については完成ベース

2020年3月期 配当方針

当期の年間配当予定額に変更なし

配当方針	当期純利益が 25億円まで配当性向 25%→30%	配当下限 18円→20円
	25億円超配当性向 35%→40%	



中間配当	8円	8円	8円	8円	9円
期末配当	10円	10円	10円	11円	11円
年間配当計	18円	18円	18円	19円	20円

中期計画 (2020年3月期～2022年3月期) GGP21 進捗状況

GGP21 Status Update

中期経営計画「GGP21」の重点戦略

Global Growth Plan 21

GGP21

売上高
500億円超

営業利益率
6.5%

資本コストの水準を
安定的に上回る
ROEの確保・向上

配当性向
30%~40%
当期純利益25億円まで→30%
当期純利益25億円超→40%
配当下限 20円

成長分野への
経営資源投入
160億円
(今中計期間内設備投資計画)

重点戦略

次世代主力事業の
育成と深耕

重点戦略

成長性の高い分野への
経営資源の投入

重点戦略

コア事業における
高需要分野への継続投資

財務戦略

新規事業・投資案件の基準適正化

中期経営計画「GGP21」の進捗状況

Global Growth Plan 21

次世代新規事業

次世代製品の事業化により来年度以降の収益貢献を目指す

- ▶ 量産開始した電流センサー事業の拡大推進中
- ▶ 竹原料の活性炭キャパシタの実用化に目処
- ▶ スマートフォン用部品の量産開始

電子情報通信関連事業

ニアラインHDD向け次世代サスペンションの量産化を進める

- ▶ 次世代サスペンションの量産化に目処
- ▶ 来期以降の生産能力増強に向けライン構築中

自動車関連事業

EVシフトを見据えた製品群の事業拡大を進める

- ▶ 新規採用の各種バスバーは試作対応中
- ▶ モーター用部品向け工場拡張完了
- ▶ シートベルト用部品は材料/製品一貫生産を武器に北米で拡販中

設備投資

次年度以降を見据えた設備投資を着実に実行する

- ▶ 電子情報通信:1,800百万円
- ▶ 次世代製品:800百万円
- ▶ 自動車関連事業工場拡張:400百万円

通期での完成ベース

次世代主力事業の育成と深耕

GGP21

売上高
500億円超

営業利益率
6.5%

資本コストの水準を
安定的に上回る
ROEの確保・向上

配当性向
30%~40%
当期純利益25億円まで→30%
当期純利益25億円超→40%
配当下限 20円

成長分野への
経営資源投入
160億円
(今中計期間内設備投資計画)

重点戦略

次世代主力事業の
育成と深耕

重点戦略
成長性の高い分野への
経営資源の投入

重点戦略
コア事業における
高需要分野への継続投資

財務戦略

新規事業・投資案件の基準適正化

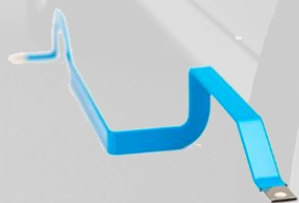
CASE対応～『電動化”E”』に注力

- 電流センサー
- 次世代開発製品

CASE(ケース)

- ✓ Connected (インターネットとの接続)
- ✓ Autonomous (自動運転)
- ✓ Shared & Services (シェアリング)
- ✓ Electric (電動化)

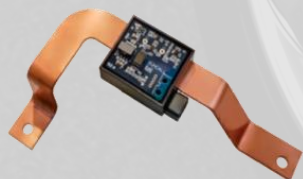
電流センサー



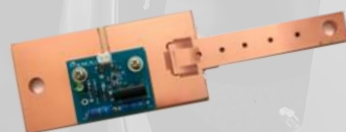
バスバー



シャントオンバスバー

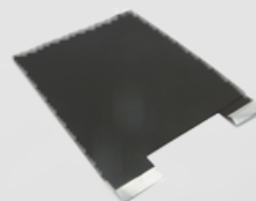


回路付き
シャントセンサー



ヒューズセンサー

次世代開発製品



活性炭キャパシタ



耐熱コイル

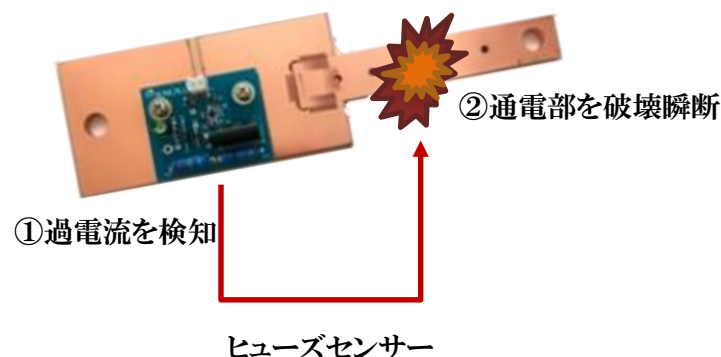
- 当社素子ボンディング技術の活用
- 放熱特性に優れる
- 量産評価中

電装機器向け
構成部品

① 電流センサーの事業化

➤ ワールドワイドで顧客ニーズに合わせた製品開発により事業規模拡大

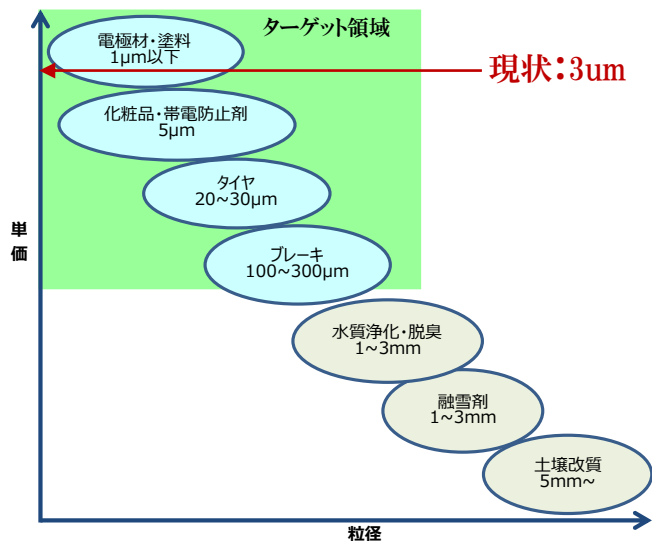
- 日本で商用車向けにシャントセンサー量産開始
- 顧客ニーズに合わせて仕様をカスタマイズ
- 欧米、中国にてOEM、Tier1、バッテリーメーカー向け拡販活動中
 - 伊藤忠商事の欧米ネットワークの活用
 - 異業種企業とのアライアンス強化により共同で拡販
 - 各種試作供給し客先評価中
- 欧州バッテリーメーカー向けシャントオンバスバー2020年量産決定
- 自社内での設計機能強化中



② 活性炭キャパシタの開発(環境に優しい製造方法)

歩行訓練支援機向けでは実用化に目処、自動車向け参入を目指す

- 入手容易で安価な竹が原材料
- 放置竹林対策として自治体と協力
- CO₂排出量の少ない加熱水蒸気炉を活用して活性炭に加工



竹炭で蓄電装置参入



竹の活性炭を使ったキャパシタの搭載を予定する
同社の歩行訓練支援機

サンコールが開発する竹の活性炭を使ったキャパシタの電極(同社提供)



過熱水蒸気炉で製造する竹の活性炭は微細な穴の分布を制御できることから、

同社は、地方創生で包括連携協定を結ぶ宮津市の放置竹林の竹を利用して、自社製の過熱水蒸気炉で活性炭を生産している。竹炭は微細な粉末とし、これまでに生活用品の消臭材や、美しい塗料を生かして高級車のインパネに使われてきた。

サンコール、宮津の放置竹林活用

サンコールは、自社製の竹炭を用いたキャパシタ(蓄電装置)事業に参入する。宮津市産の竹を活用する取り組み。小判藍化が可能で短時間で充分充電に向く特徴を生かし、まずは3年以内に同社の歩行訓練支援機に搭載し、事業化を進める。

歩行訓練支援機 搭載へ

(江夏順平)

リチウムイオン電池と比較し、キャパシタは蓄電容量が少ない一方、短時間で充分充電に優れる。蓄電に化学反応を伴わないため安全性が高く、軽いことから、訓練支援機や医療や介護現場での使用に向いているという。

キャパシタの素材としても優れており、実用化に向け開発を進めてきた。同社は、エンジンの弁はねなど自動車部品を主力としていて、自動車の電動化を見据えながら新事業の開拓を進めている。すでに医療・介護分野向けに歩行訓練支援機を発売しており、3年以内をめどに電源として竹炭を用いたキャパシタを搭載する。

大谷忠雄社長は「安価で安全なキャパシタの需要は多いはずだ。自社製品への搭載を皮切りに、蓄電部品事業に参入したい」と話す。

2019年8月21日付 京都新聞掲載
京都新聞社よりご提供
無断複製・転載禁止

成長性の高い分野への経営資源の投入

GGP21

売上高
500億円超

営業利益率
6.5%

資本コストの水準を
安定的に上回る
ROEの確保・向上

配当性向
30%~40%
当期純利益25億円まで→30%
当期純利益25億円超→40%
配当下限 20円

成長分野への
経営資源投入
160億円
(今中計期間内設備投資計画)

重点戦略
次世代主力事業の
育成と深耕

重点戦略
成長性の高い分野への
経営資源の投入

重点戦略
コア事業における
高需要分野への継続投資

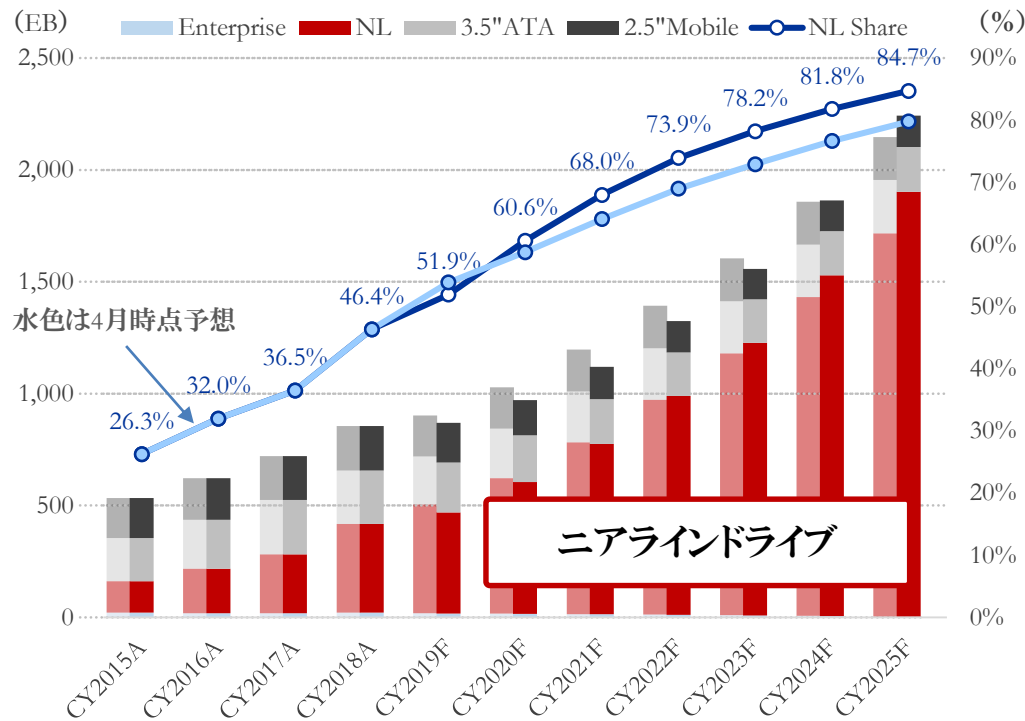
財務戦略

新規事業・投資案件の基準適正化

サスペンション事業は高い成長が見込めるニアライン向けHDDに特化

- ニアラインHDDは、大容量とGBコストの安さでSSDに対する優位性確保
- 2019年は一時的に落ち込むが、引き続き高需要が見込まれる市場

HDDの容量需要とニアラインドライブの占める割合



➤ ニアラインHDDの主な用途はデータセンタークラウドや動画ストリーミングサービスが発達に伴いデータを保存するためのデータセンター需要は益々増加

➤ 2019年4月時点の予想と比較し、HDDの容量需要に占めるニアラインドライブの比率は2019年に落ち込むが、2020年以降は増える見通し。

A(実績) / F(予測)

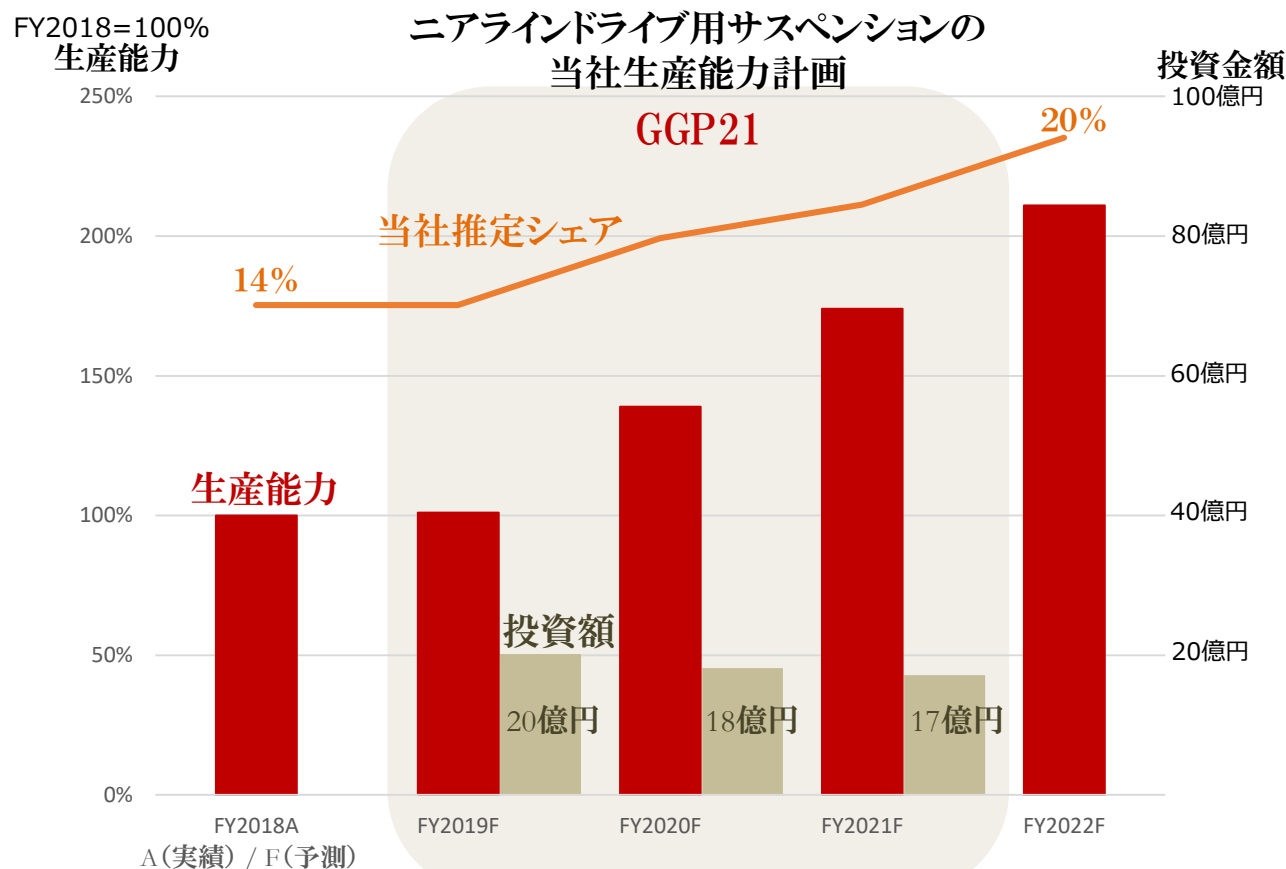
(出所)テクノ・システム・リサーチ Ver.191009

HDD: Hard Disk Drive(ハードディスクドライブ)データを保存する記憶装置

ニアライン向けサスペンションに投資を集中

- ニアラインドライブの高需要に応えるべくサスペンションの生産能力増強
- 市場ニーズは旺盛で、当社シェアは2022年で20%^{*}を想定

^{*} ニアラインドライブ市場のサスペンション需要に対するシェアで、当社推定



- 生産能力は現状の2倍強を計画
- 電子情報通信分野への投資計画3年間合計55億円

ニアライン用サスペンションの全世界需要はテクノ・システム・リサーチのデータに基づく当社推定

コア事業における高需要分野への継続投資

GGP21

売上高
500億円超

営業利益率
6.5%

資本コストの水準を
安定的に上回る
ROEの確保・向上

配当性向
30%~40%
当期純利益25億円まで→30%
当期純利益25億円超→40%
配当下限 20円

成長分野への
経営資源投入
160億円
(今中計期間内設備投資計画)

重点戦略
次世代主力事業の
育成と深耕

重点戦略
成長性の高い分野への
経営資源の投入

財務戦略

新規事業・投資案件の基準適正化

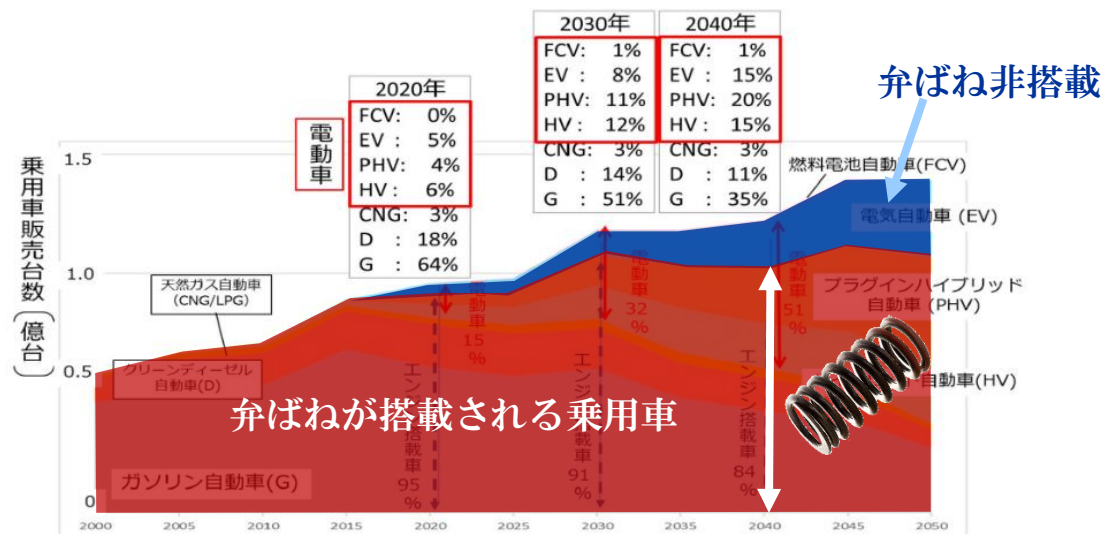
重点戦略

コア事業における
高需要分野への継続投資

① EVシフトを見据えたコア製品後継モデルの継続受注・シェア向上

弁ばね

➤ エンジン搭載車動向の注視



(出所)IEA「ETP(Energy Technology Perspectives)2017」に基づき作成
経済産業省 自動車新時代戦略会議(第1回)資料より

弁ばね搭載車
2040年で全体の84%

- HVやPHV、レンジエクステンダーEVなどでの採用活動推進中
- 受注に見合う適切な生産能力の確保
- さらなる新規案件の上積み
- 材料は日本・中国・メキシコ3拠点から供給
 - メキシコは生産能力増強を計画

② EVを構成する精密機能部品の開発・事業拡大

シートベルト用ぜんまいばね

- 北米需要取り込みのため2014年に速水発条と合併でメキシコ進出
- 当社および韓国KISWIREの圧延材料製造工程を韓国に集約



バスバー

- モーター、インバーター、バッテリーなどのユニット配線用途として拡販中
- ユニット形状に合わせた設計、金型不要のフォーミング加工や薄膜絶縁塗装技術で顧客要求にカスタマイズ



モーターコア・ステーターコア

- モーターの構成部品
- プレス加工からシャフト圧入、研磨、洗浄まで自動一貫生産



補足

Appendix

会社概要



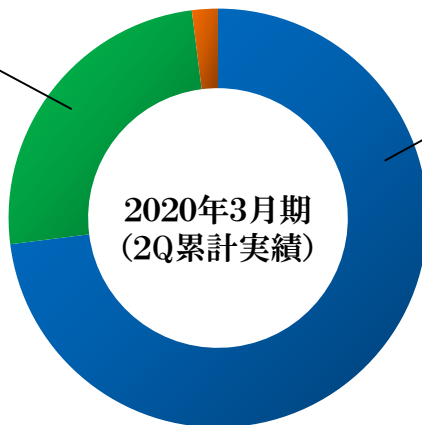
京都本社

社名	： サンコール株式会社 ： SUNCALL CORPORATION
設立	： 1943年6月
資本金	： 48億8百万円
本社	： 京都市右京区梅津西浦町14番地
証券取引所	： 東京証券取引所 第一部
従業員数	： 2,394名(連結) 624名(単体)
主要株主	： 伊藤忠商事(株) 26.3% ： 日本マスタートラスト信託銀行(株) （退職給付信託口・(株)神戸製鋼所口） 17.4%

(2019年9月末時点)

25%

電子情報通信分野



73%

自動車分野

HDD部品



HDD
サスペンション

プリンター部品



ローラー



トルクリミッター
スプリングクラッチ

通信関連部品

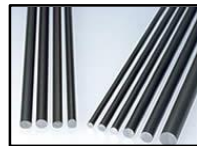


光コネクタ



光アダプタ

精密機能材料



弁バネ用線



精密异形線

精密機能部品



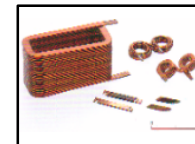
弁バネ



リングギア



ぜんまいバネ



リアクターコイル



モーターコア部品

蓄積されたノウハウと技術による 実績と信頼

金型 内製

引抜き加工用金型(ダイス)の内製化により、より複雑な形状の精密異形製品を創出。お客様の要求精度を満たしながら短納期化を実現。

品質 保証

高精度部品のもので得た計測ノウハウを応用展開。独自のセンサー応用技術を活かしたインライン計測システムと制御技術を融合させ、品質・生産性を飛躍的に向上。

材料 開発

鋼材の成分設計から関与し、お客様の要求仕様を満たす高応力や高耐久性に優れた高強度材料を独自に開発。

表面 処理技術

窒化処理や多段ショット等の表面処理技術を駆使し、高い疲労強度を実現。

高度な精密塑性加工技術

材料から製品までの一貫生産体制

高度な精密塑性加工技術で社会のニーズに応える製品を展開



海外拠点

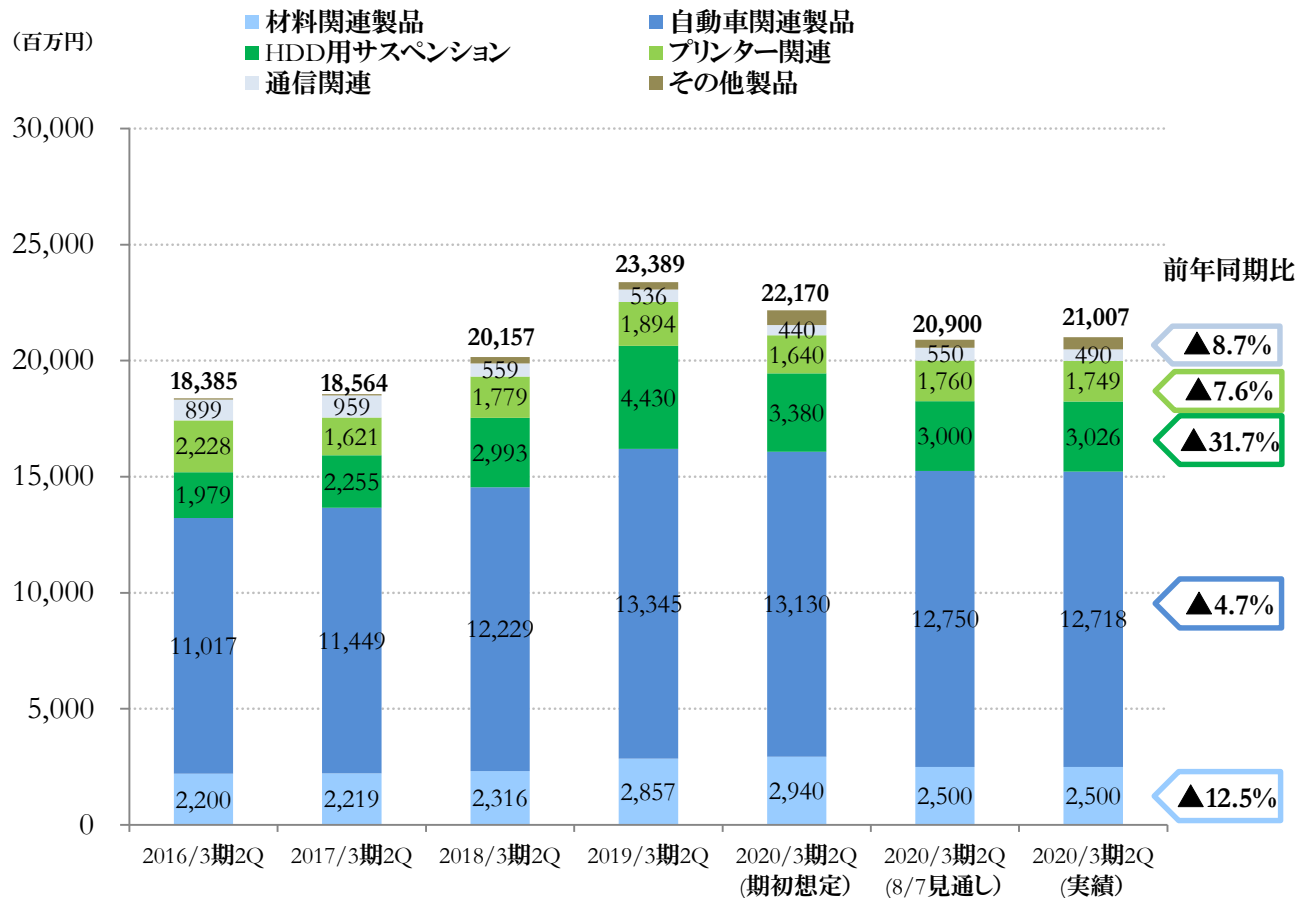
国・地域		出資比率	生産品目
アメリカ	インディアナ州	100%	弁ばね、リングギアほか
	サウスカロライナ州	100%	光通信部品(販売拠点)
	テキサス州	100%	
メキシコ	アグアスカリエンテス州	100%	弁ばね用材料、リングギア
	アグアスカリエンテス州	50%	シートベルト用ぜんまいばね
中国	広州	100%	弁ばね、リングギアほか
	広州	100%	弁ばね用材料(販売拠点)
	佛山	25%	弁ばね用材料
	天津	100%	リングギア
	深圳	100%	プリンター用ローラー、光通信部品ほか
	香港	100%	
タイ	チョンブリ県	100%	弁ばね、リングギア シートベルト用ぜんまいばね プリンター用ローラーほか
ベトナム	ハノイ	100%	プリンター用ローラーほか
韓国	梁山	49%	シートベルト用ぜんまいばね材料
フィリピン	マニラ	100%	HDD用サスペンション(駐在員事務所)

7 カ国

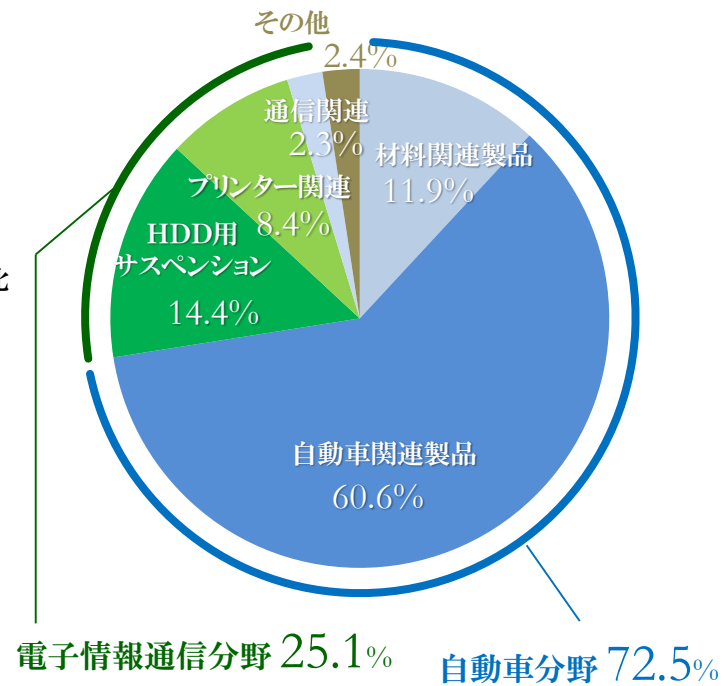
15 拠点

2Q累計 製品区分別売上推移

製品区分別連結売上高の推移

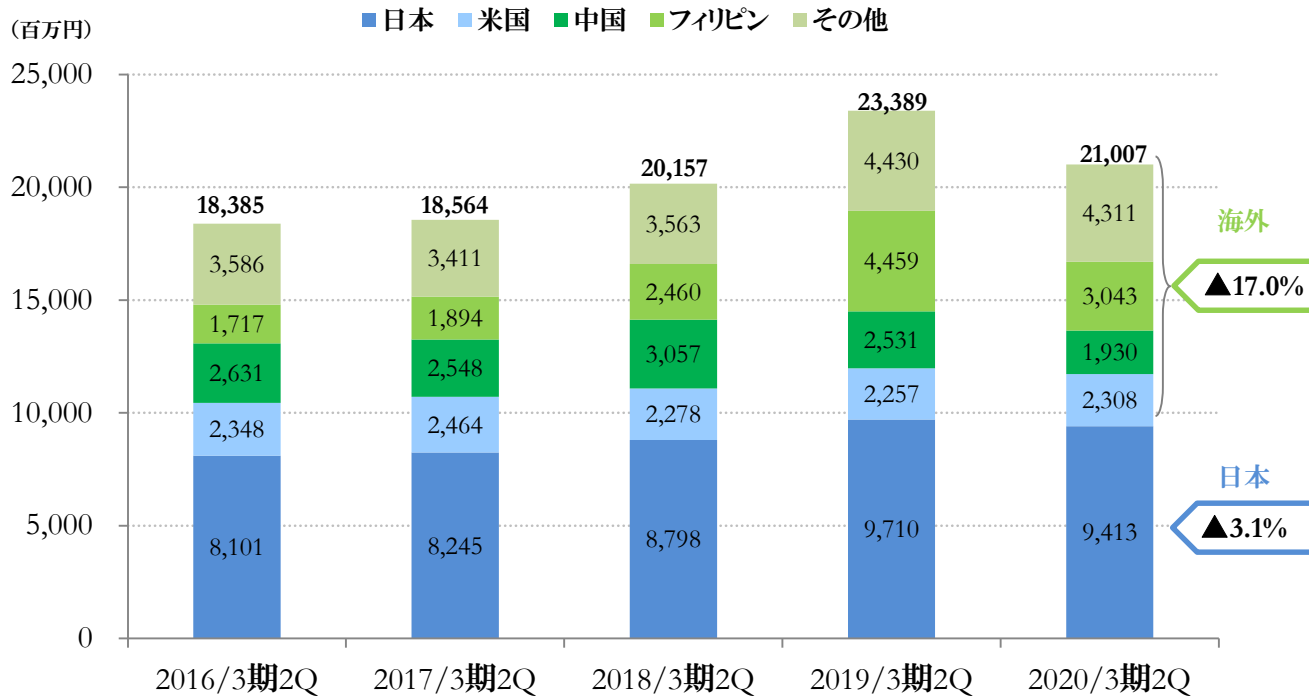


製品区分別連結売上高構成比(2020/3期2Q)

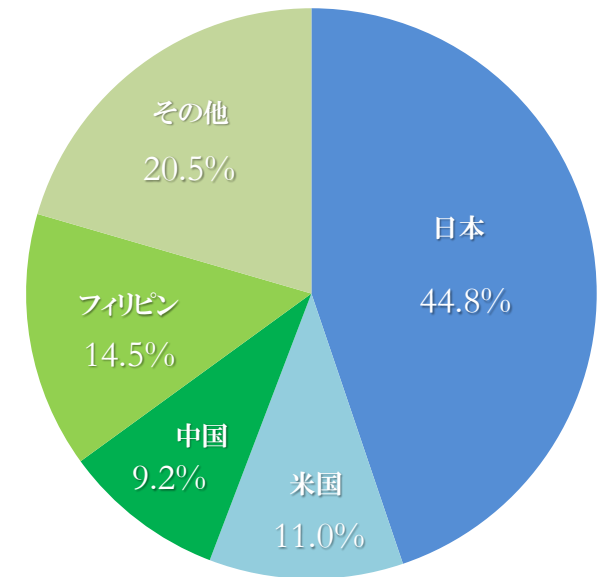


2Q累計 地域別売上推移

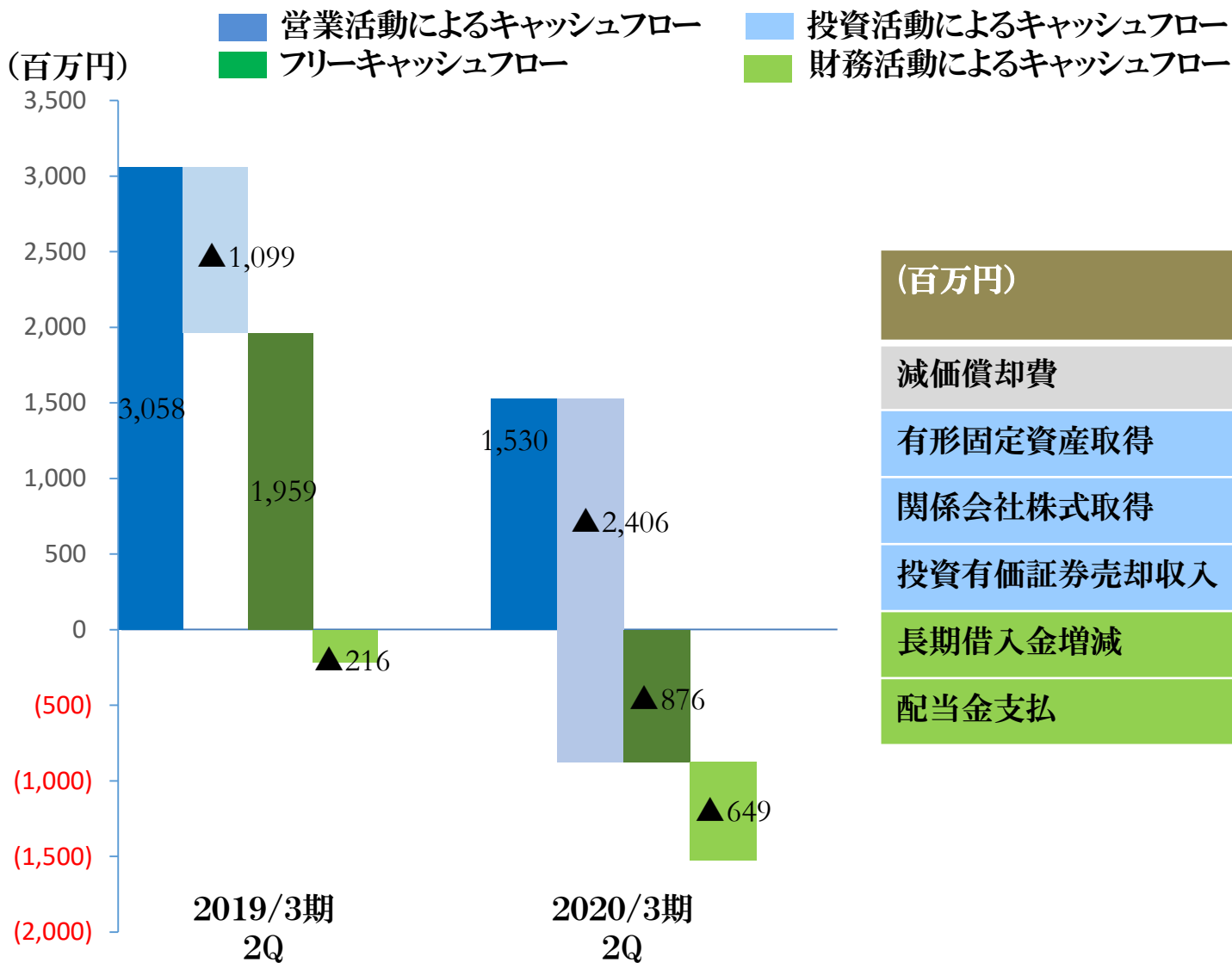
地域別連結売上高の推移



地域別連結売上高構成比(2020/3期2Q)



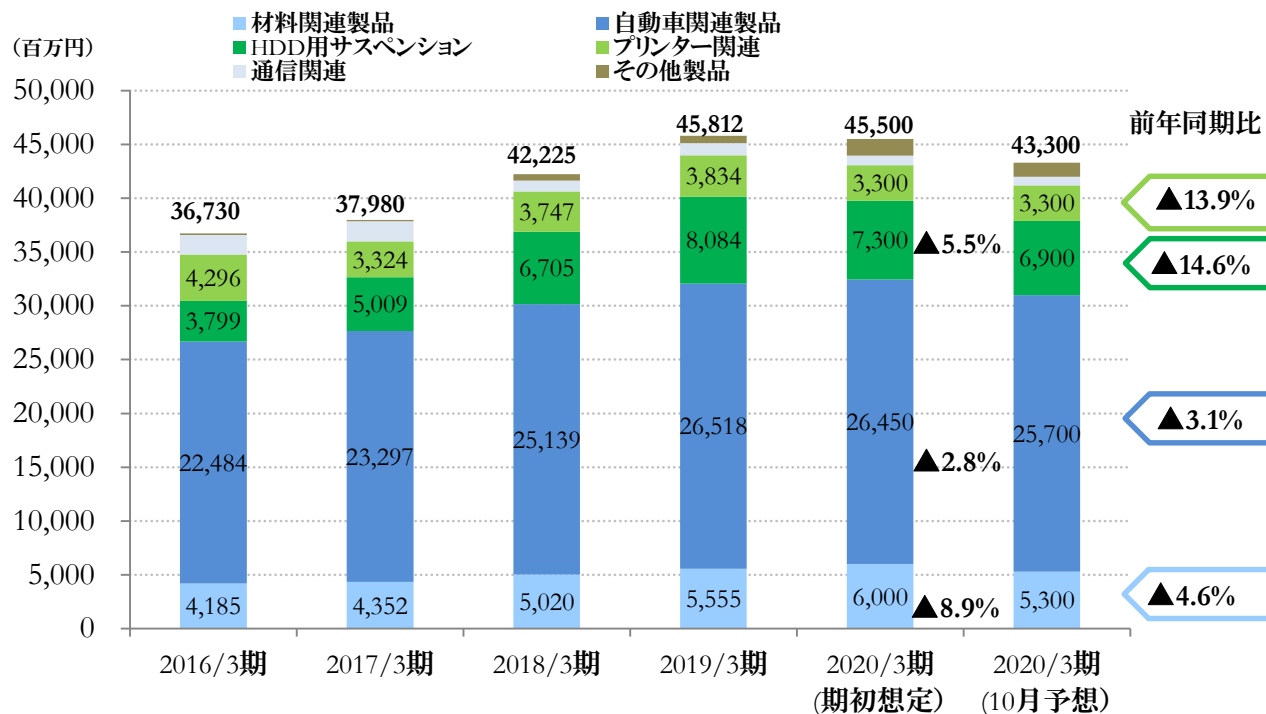
2Q累計 連結キャッシュ・フローの状況



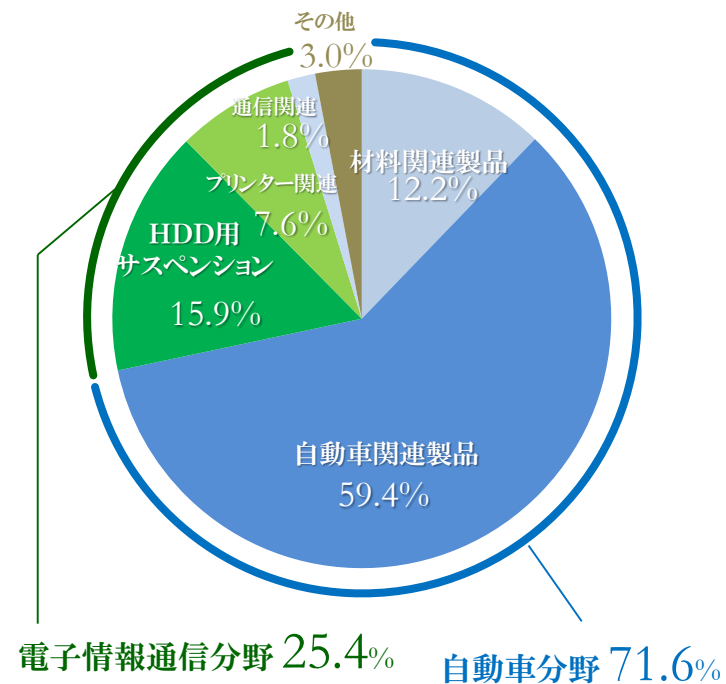
(百万円)	2019年3月期 Q2	2020年3月期 Q2
減価償却費	1,450	1,484
有形固定資産取得	▲1,000	▲2,400
関係会社株式取得	▲82	0
投資有価証券売却収入	0	▲44
長期借入金増減	151	▲367
配当金支払	▲323	▲356

2020年3月期通期 製品区分別売上推移

製品区分別連結売上高の推移

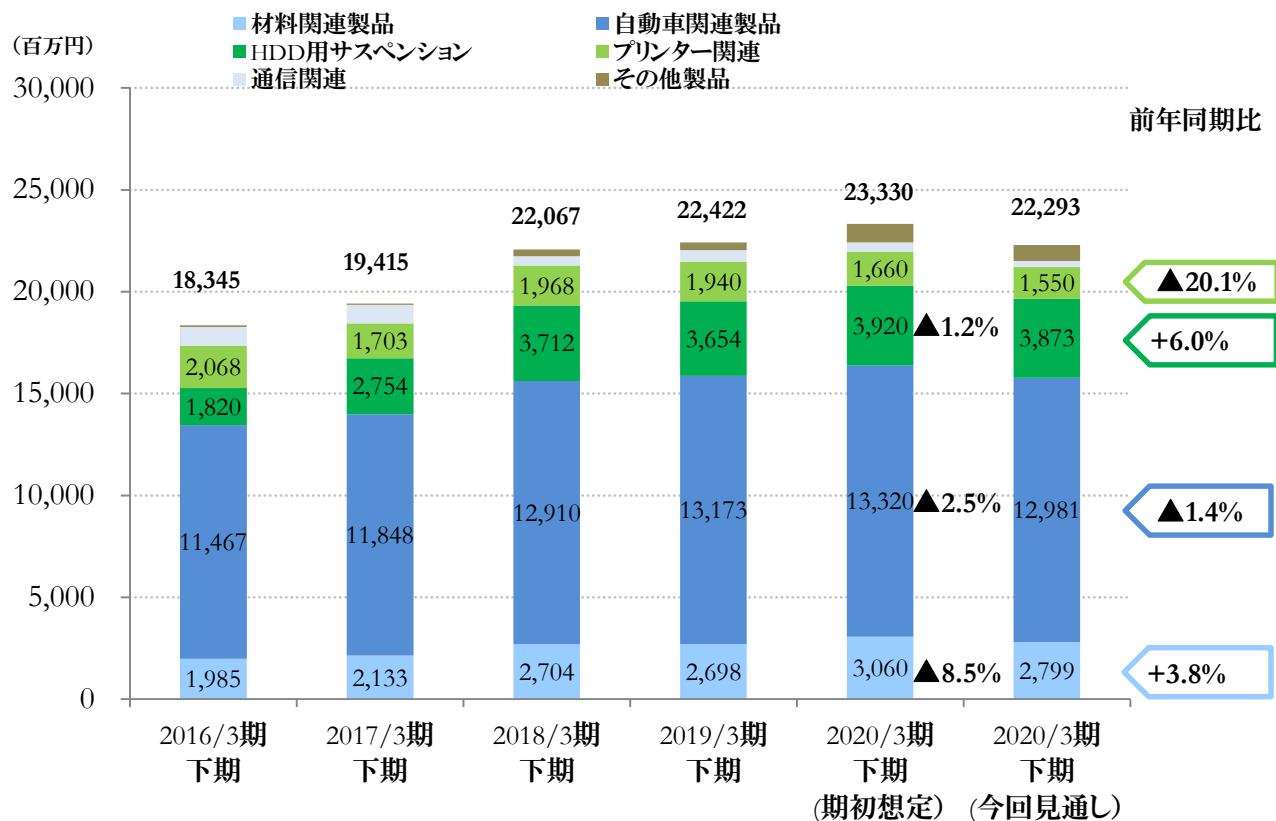


製品区分別連結売上高構成比(2020/3期見通し)

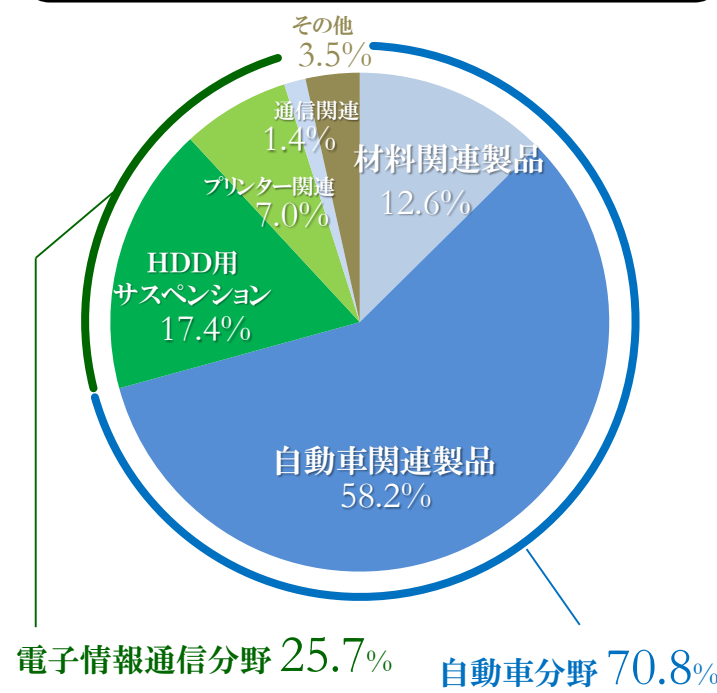


2020年3月期下期 製品区分別売上見通し

製品区分別連結下期売上高の推移



製品区分別連結売上高構成比(2020/3期下期見通し)



【ご注意】

本日の説明および配布資料には、当社の事業に関する業績見通し、将来の計画・方針等に関する記述が含まれていますので、株券等の取引を行う際には、金融商品取引法その他の法令の遵守をお願い申し上げます。また、将来予想は、現時点で入手できる情報に基づき作成しており、既知または未知のリスク・不確実な要因等を含んでいるため、当社の実際の業績、事業活動や財政状態が、将来予想の内容と大きく異なる場合がありますが、そのような場合であっても当社は、将来予想の内容を更新または修正して公表・開示する責任を負うものではありません。

